

申請受付番号	1	2	3
事業名 (副題)	生きづらさを抱える人も幸せになれる地域の居場所づくり (受け入れあい、刺激しあう！安心して過ごせる第三の居場所)	福野まちなかりノベーション事業 (まちなかの未来に希望を与えるコミュニティの創造)	色々な障がいを知って繋がる場所づくり (個性を発揮できる多様でカラフルな地域の実現への第一歩)
団体名	(任意団体) よってカフェ * 3月にはNPO化予定	一般社団法人福野アソシエイツ	一般社団法人 さざんくろす
所在地	富山県南砺市	富山県南砺市	富山県南砺市
事業概要	<p>発達障がい・グレーゾーンを含む子どもたちが年々増えている。適切な支援がなされず、不登校や二次障がいになるケースも多い。普通の子どもや保護者も気軽に集うことができる、身近な居場所が相談窓口にもなる、行政でも病院でも学校でもない多機能空間づくりを進める。社会で生き抜く力を養う体験（調理、掃除、ソーシャルスキル、職業体験など）のコンテンツを充実させると共に、スタッフが寄り添いサポートする。子どもの情報を地域の福祉担当者や行政機関、学校などと共有し、支援を必要とする人が、適時必要な支援が受けられる環境を充実させる。生きづらさを抱える子どもたちも、夢中になれることや、こだわりの活かし方が見つかる。個性や特性を活かして、人の役に立つ経験を積み、人とのつながりを通じた喜びを体感するようになる。それによって、親子ともに自己肯定感が向上し、心が安定し、引きこもりや不登校からの脱却や予防につながる。さらに、関係団体と連携し、障がいの有無によらず認め合い、刺激し合い、共生していく、多様性を抱えた地域社会モデルを「よってカフェ」から発信する。</p>	<p>福野地域のまちなか（市街地）は、約60年前から若者の流出が始まり、現在ではひとり暮らしの高齢者世帯の割合が、南砺市内でも2番目に多い超高齢化地域となっている。また、それに伴い、把握できるだけで約120件もの家屋が空き家となっている。地域に若い人がいない、子ども達がいらないことにより、地域活動が希薄となり、まちが衰退し、負のスパイラルに陥り、福野のまちなかの未来に希望を失っている人が多くなっている。</p> <p>そこで、私たちはかつて福野地域のまちなかの中心地であった上町通りにある町屋（旧前川邸）を子育て世代が住まい出来る子育て賃貸住宅や子ども達のあそび場にリノベーションし、まちなかに子育て世帯が住みやすい居場所づくりを行う。若い人や子どもが新たに地域のコミュニティに入ることで、定住人口の増加、交流人口の増加、ひいては地域活性化に繋げ、コミュニティの再生をはかり、地域の人が希望をもってイキイキと活躍できる持続可能な地域づくりを行う。</p>	<p>これまで障がいについて関わりが無かった地域住民を対象に、弊所の利用者が就労するカフェをオープンし、障がい者、障がいと接点となる場を創る。多世代の人が気軽に訪れる場所とするため、ワークショップの開催、アール・ブリュット※1、市内外の作家作品、地域産業商品、工芸品の展示を取り入れる等多方面から障がいを知る機会を創出する。場が認知されることにより、障がい者や引きこもりを始めとする孤立している人、及びその家族が訪れる場、地域周辺からの情報が収集される場となり、（病識のない方も含む）障がい者とその家族、孤立している人など市等の関係機関、支援制度に繋ぐことができる身近な地域の相談窓口を構築する。超短時間雇用を取り入れ、個々の実情に応じた働きやすい環境づくりに取り組み、孤立していた人が社会と繋がる場となることを目指す。障がい等の有無に関係なく一人の住民として、地域と繋がり、楽しく、自由に表現・能力を発揮できる地域になるための一助となる場にする。</p> <p>※1 「生の芸術」という意味でフランス語が語源。美術教育を受けていない人が、既成の表現法にとらわれず自由に制作した作品のことを指す。日本では、知的障がい者の制作する美術を指すことが多い。</p>

申請受付番号	4	5	6
事業名 (副題)	AIオンデマンド交通サービス (外出先とタイミングをリコメンドする AI システムが地域の移動を支える)	中山間地の地域コミュニティを維持し、誰もが安心して暮らせる地域共生社会を目指す (集落の環境や農地と生活を守るため、集落営農組織の活性化と共に、次世代を担う後継者人材を育成する)	つなぐ・つながる ふくみっつ (みんなの居場所づくり)
団体名	一般社団法人イドウラボ・コストサイエンス株式会社コンソーシアム	農事組合法人 大鋸屋営農組合	(任意団体) ふくみっつ
所在地	富山県南砺市	富山県南砺市	富山県南砺市
事業概要	<p>【事業概要】 移動に困難を抱える住民に対してオンデマンド交通を導入することで、移動のハードルを下げ、地域内交流の促進と利便性の向上を目的とする事業。特に駅やバス停から離れた住宅地において、通院、買い物など様々な目的での移動手段の確保を目的とする。</p> <p>【基本的な考え方】</p> <p>(1) 安全・安心な運行：道路運送法による事業許可を得た既存のタクシー事業者等の交通事業者による運行を基本とする。必要な事業費を確保できる場合は車両の購入も検討する。</p> <p>(2) システムによる効率的な予約・配車サービスの構築と運用：オンデマンド交通の運営には予約と配車が必要であるが、その領域に情報技術を用いることを想定する。その予約と配車のシステムを洗練、高度化させることを本事業の主眼とし、3年を掛けてシステムを改善しながら、利用者の利便性の高いサービスを提供する。</p> <p>(3) 移動困難者へのオンデマンド交通サービス提供：主に以下のような住民を主な対象として、地域の交流拠点や医療機関等への移動を担う交通サービスを提供する。 ・高齢者・引きこもりの方・産前産後の女性等・知的障がい者の方、精神障がい者の方、身体障がい者の方等</p>	<p>① 農作業が困難となり後継者がいない高齢農業者が、集落営農組織を繋がり支援されながら、出来る軽作業を継続し、次世代の後継人材に安心して先祖伝来の田畑を任せられる環境が整う。</p> <p>② 農業の従事を希望し目指す後継人材(若者・移住者・女性等)が、集落営農組織と繋がり支援を受け、農業の実務のみならず環境負荷の少ない農林水産省が目指す「みどり戦略」を学ぶ研修を行い、生活の安定・自立への環境が整う。</p> <p>③ 集落営農組織が経営の安定や人材育成により継続可能となり、集落自治組織と共同で高齢世帯への生活支援も含めて取り組んでいる。</p>	<p>制度の縦割りや分野を超えて色んな人が集い、活動中の民間団体などが連携することで制度の隙間で困っている人をはじめ誰もが安心して、個人の自立・自律を促し幸福度を高め、生きがいのある暮らしやすい多文化共生社会を創り上げる。</p> <p>様々な社会問題を「自分ごと」として捉え「お互い様の気持ち」で支え合い、公では補い切れない、地域の暮らしに寄り添う中間支援となり、見えない地域のつながりを見える化し、制度の隙間で困っている人との交流と循環を生み出す。</p>